

インターバンクの声（2015 年 4 月 17 日）

今週はとにかく米経済指標結果が相場を揺り動かす場合がほとんどで、昨夜も新規失業保険申請件数や3月の住宅着工件数が市場予想より悪化していたことでドルが売られた。それでも対豪ドルでの下落は、東京時間の終盤と比べても100ポイント程度下落に留まり、対円でも高値から60銭ほどの下げに留まった。目立った下落が見られたのは対ユーロの動き。週初には1.05ドル台前半までドル高・ユーロ安が進んでいたが、昨夜は1.08ドル台までドルが売り込まれた。ギリシャの債務問題を巡っての金融支援の先行きが不透明なこともあって、ユーロが売られ易い状況は変わらないが、昨夜に限っては、弱い米経済指標の発表が続いたことや米連邦準備制度理事会（FRB）メンバーである地区連銀総裁の講演での発言を受け、FRBの6月の利上げの可能性が薄まってしまったとの見方に傾いたことが響いたようだ。今日も東京時間に大きな変化は期待し難く、ニューヨーク時間での消費者物価指数や景気先行指数などの結果に注目せざるを得ないだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。